

# 山梨建設新聞 9月2日 (土曜日)

## 山梨建設新聞

2017年(平成29年)9月2日(土曜日) (2)



外国人就労 656人が入国した。  
 の必要性 受入建設企業の訪問・  
 ▼ことし7 指導等を行う特定監理  
 月にネパール 団体の認定数は144  
 ル連邦民主 団体で、適正監理計画  
 共和国の中 は721計画(688  
 学生による 企業)に達した。適正  
 「ネパール 監理計画に基づく入国  
 交流団」が、8月には 予定者は、2017年  
 「富士山・エベレスト 度末までに3200人  
 若者環境交流事業」の 程度を見込む。国別に  
 一環として、大学生訪 見ると、中国やベトナム  
 問団が続けて山梨に来 ム、フィリピン、インド  
 県した。ホストとして ドネシアが多く、ネ  
 案内の先頭に立ったの パールは非常に少ない  
 は大月市にある住宅屋 ▲日本国内では、ここ  
 根工事業の会長。ネ 数年で多くの自然災害  
 パールの要人パイプ が起きた。震災復興や  
 があり、和太鼓を通じ 東京五輪関連施設の整  
 た交流が長年続いてい 備などの大事業もあ  
 るという▼将来的に る。国交省は、一時的  
 は、ネパールで日本語 な建設需要の増加に対  
 (建築用語など含む)を 応するため、時限的措  
 覚えてもらい「ネパ 置として即戦力となり  
 ルの若者に県内の建設 得る外国人材の活用促  
 関連業へ就労してもら 進を図っている▼建設  
 いたいと考えている。 業界への若者離れが進  
 建設技術を身に付けて む中、積極的に外国人  
 から帰国し、自然災害 を登用する企業も出て  
 が多発するネパールで くるだろう。ネパール  
 「若者が建設業で働き 人は「とても真面目で  
 復興に役立ってくれ 非常に親しみやすい」  
 ばうれしい」と話した と会長は言う。県内の  
 ▼国土交通省の外国人 建設現場でネパール語  
 建設就労者受入事業で が飛び交う日も近いの  
 ことし5月末までに1 か。(山梨・T.H)